

小学校国語研究部

I 研究主題

思考力・判断力・表現力を育成する指導法の工夫

—説明し、書く活動を通して—

II 研究主題の設定理由

PISA調査等により、我が国の児童生徒には「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題」「知識・技能を活用する問題」に課題があることが報告された。それを受け、平成20年1月17日中央教育審議会答申では、「思考力・判断力・表現力等を確実にほぐくむために、まず、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。」として、さらに「国語科のみならず各教科等において、記録、要約、説明、論述といった言語活動を発達の段階に応じて行うこと」の重要性が示されている。

一方、本研究部においても、児童（各々の研究員が担任する学級の児童）の実態を検討した結果、「自分の考えを説明すること」「論理的に話したり書いたりすること」「必要な情報を取捨選択して伝えること」が課題であることが明確になったが、これは、先述の記録、要約、説明、論述といった言語活動が十分に行われていないことも要因の一つであると考えられる。

そこで、本研究部では、論理的に説明したり書いたりする言語活動を行い、それらを通して思考力、判断力、表現力の育成を図りたいと考え、本研究主題を設定した。説明文の読解で「書くための観点」を習得する際には、必ず「説明する」活動を取り入れることとした。また、説明文を書く活動においては、習得した観点を活用し、目的や意図に応じて適切な文章を書けるよう指導使用と考えた。さらに、評価を通してそれらの具体的手立ての効果を確かめながら、研究を進めることとした。

III 研究の内容

次の3点をもとに、思考力・判断力・表現力の育成を目指し、研究を進めることにした。

- 1 習得した知識・技能を活用して、説明文・提案文を書くための手順を明確にする。
 - ① 教材文や「例文の比較」から、説明文・提案文を書くための観点（段落構成・文末表現・接続詞の適切な使い方・論の組み立て方等）を見つける。それらを説明・共有し合い、理解を深めることにより、「書くための観点」を習得する。
 - ② 知識・技能として習得した「書くための観点」を活用して説明文・提案文を書き、観点到って振り返り、推敲する。
- 2 学習活動を、思考・説明という観点で分類する

教師は、目標達成に向け、意欲を持続させるような学習活動を無意識に選択し指導している。しかし、児童が夢中になる学習には、学習意欲を喚起する活動だけでなく、思考力・表現力に関連する活動が自然に選択されているのではないかと考えた。

そこで、本研究部では、1年生・6年生の各単元で行う活動を、思考・説明との関連で分類し、それを意識しながら授業研究を進めることとした。その際、昨年度の「知識・技能を活用する学習活動研究部」の示した「考えるための技法」（平成21年度所沢市立教育

センター研究員研究紀要 p 7 1 参照) を参考に、1 年生・6 年生の研究授業に即して考えたのが、下図である。

6 年生では、グループでの話し合いにおいて、この「思考のための手立て」「説明のための手立て」がどのように使われ、話し合いが進んでいるかを、確認することとした。



3 ルーブリックを指導・評価に生かす

ルーブリックは、さまざまな活動・段階において作成されるものであるが、ここでは、最終作品の評価のためのルーブリックを作成することとした。最終作品のルーブリックを作ることで、単元を通した思考力・判断力・表現力の評価が可能になるとともに、指導の段階で「何を発見させればよいのか」「どのような思考・判断をさせればよいのか」が明確になると考えたからである。

そのために、川端教諭の1年「じどう車くらべ」で授業実践とともに最終作品のルーブリックを作成し、それをもとに彦島教諭が同単元の授業実践を行うことにした。川端学級の最終作品のルーブリック作りが、「思考・判断を見取る観点」を明確にし、彦島学級での「目標に即した指導」をより適切にするのではないかと考えたのである。

さらに、新藤教諭の6年「みんなで生きる町」では、最終作品のルーブリックから逆算して授業を組み立て、グループ・全体の話し合いで、どの観点到気付かせれば「目標に達した最終作品」に到達できるかを明らかにしようと考えた。

1、2、3の実践により、思考力・判断力・表現力に視点を当てた指導と評価の一体化を図ることができるのではないかと考え、実践に取り組んだ。

IV 実践例 1

【指導案】

第 1 学年国語科学習指導案

指導者 川端 麦(10月19日・北秋津小学校)

指導者 彦島 康美(10月22日・富岡小学校)

1. 単元名・教材名 くらべてみよう「じどう車くらべ」

2. 児童の実態と本単元の意図(略)

3. 単元の目標

(1) じどう車ずかんに興味をもち、進んでじどう車ずかんを作ろうとしている。
(関心・意欲・態度)

(2) じどう車の「しごと」と「つくり」を分けて、説明する文章を書くことができる。
(書くこと)

(3) それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を考えながら大体を読むことができる。
(読むこと)

(4) 片仮名で書く語を読んだり書いたりすることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4. 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準(略)

5. 指導と評価の計画(全9時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1・2	・課題提示文を読み、これから学習する「しごと」と「つくり」の意識を持つ。 ・新出漢字と片仮名を練習する。	・単元全体の見通し ・目的意識の持ち方 ・新出漢字と片仮名	・話し合いの様子 ・発表の内容、態度
3~5 本時	・教材文を読み、自動車の「しごと」と「つくり」について読み取る。	・音読の仕方 ・サイドラインの引き方	・発表の内容、態度 ・ワークシート ・教科書書き込み
6	・はしご車についての「しごと」と「つくり」についてみんなで考え、自動車図鑑の作り方を理解する。	・話し合いの視点 ・図鑑の作り方	・発表の内容、態度 ・ワークシートの考察
7・8	・自分の好きな自動車の「しごと」と「つくり」について簡単に説明する文章を書く。	・説明の書き方 ・表記の仕方 ・二つの文章の違い	・発表の内容、態度 ・ワークシートの考察
9	・それぞれの書いた自動車図鑑を友達と読みあい、よいところを見つける。	・よいところの見つけ方	・発表の内容、態度

6. 本時の学習指導(5/9時)


(1) 目標 クレーン車の「しごと」と「つくり」について正しく読み取ることができる。

(2) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
クレーン車の「しごと」と「つくり」に興味を持ち、すすんで見つけようとしている。	「しごと」と「つくり」の関係を考えながら内容の大体を読んでいる。	片仮名を正しく読んだり書いたりしている。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 本時の学習課題をつかむ。	○学習課題の理解 「しごと」と「つくり」をはっけんし、クレーン車のひみつを見つけよう。	○学習課題に沿って文章を読み取っていくことを知らせる。	2

<p>2 P 95を音読する。</p> <p>3 教材に書かれているクレーン車の「しごと」「つくり」を読み取る。</p>	<p>○音読の仕方 学習内容の想起</p> <p>○叙述に即した自分の考えの発表</p> <p>○叙述に即した読み</p> <p>○発表の仕方 ・知らせたい事柄を根拠を入れて話すこと</p>	<p>○学習範囲を知り、仕事と作りが書かれている文に気づく。</p> <p>○教師の後について、学習範囲を確かめながら読む。</p> <p>・「そのために」という言葉が、「しごと」と「つくり」をつないでいることを確認する。</p>	<p>3</p> <p>15</p>
<p>4 教材に書かれていないクレーン車の「つくり」を発見し、その仕事とのつながりを考える。</p> <p>(1) 挿絵を見て、ほかの車とは違う「つくり」に矢印を引き名称を書く。</p> <p>(2) なぜそれが「しごと」とつながっているのかを発表する。</p> <p>5 まとめの音読をする。</p> <p>6 次時の予告を聞く。</p>	<p>○発表の仕方</p> 	<p>・児童の考えを板書し、意見が思いつかなかった児童も自分の考えを広げられるようにする。</p> <p>評価場面</p> <p><具体の評価規準> エ</p> <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記述の過程の観察 ・ワークシート <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」が十分に達成されている児童には、他にも考えられる点がないか促す。また、自分の言葉でそう思った理由を言えるように助言する。 ・活動に取り組めていない児童には、着眼点を想起させ、ヒントを与えながら見つけさせていく。 	<p>20</p> <p>3</p> <p>2</p>

7. 板書計画

つくり

③
④
⑤
⑥
⑦

しごと

・じょうぶなうでが、のびたりうごいたりする。

・車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついている。

・ぶらさげるためのたぐさんのひもがついている。

・かいてんしてむきがかえられるからがある。

・ピアノ

・クレーン車の絵

じどう車くらへ「しごと」と「つくり」をはっけんし、クレーン車のひみつを見つけよう

てっこつ

いえのざいりよう

8、本時の授業をもとに書いた説明文のルーブリック

技法	課題	3	2	1
構成	「しごと」「つくり」の2段落構成で、つながりに整合性がある。	2段落構成で、「つくり」の効果や仕組みを多面的・具体的な例を示して詳しく述べている。	「しごと」「つくり」の2段落構成でつながりに整合性がある	・2段落構成ではない。 ・つながりに整合性がない。
表現技法	敬体・常体の文末がそろっている	文末がそろっており、変化もある。	文末がそろっている	文末がそろっていない

【アンカー作品例】(本単元8/9の作品より)

以下は、ルーブリックを基にして評価をつけたアンカー作品例である。評価を明確にするために種別に提示した。

シヨベルカー	3	シヨベルカーはすなをはこぶしごとをしています。 <u>そのために</u> 、でこぼこみちのところでも、すながおちないとトラックにたのまれたぶんをはこべないからです。 <u>ぎんのぼうがうごいたら、シャベルがうごくようにつくられています。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2段落構成で、つながりに整合性がある。 ・ 文末がそろっている。 ・ 「つくり」の理由や仕組みを詳しく書いている。
	2	シヨベルカーはすなをはこぶしごとをしています。 <u>そのために</u> 、でこぼこのところもはしれるように、タイヤのひょうめんがでこぼこにつくってあります。 <u>うごきやすいように、タイヤがでこぼこしているのです。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2段落構成で、つながりに整合性がある。 ・ 文末がそろっている。 ※ 最後の一文は同一内容を繰り返しているため、3の評価にはならない。
	1	シヨベルカーはすなをすくってあなをあけるしごとをしています。 <u>そのために</u> 、うんてんせきのレバーがてつのぼうにつながつているから、シャベルでつちをほることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ つながりに整合性がない。 ・ 「つくり」が明確ではない。 ・ 文末がそろっている。

【実践の振り返り】

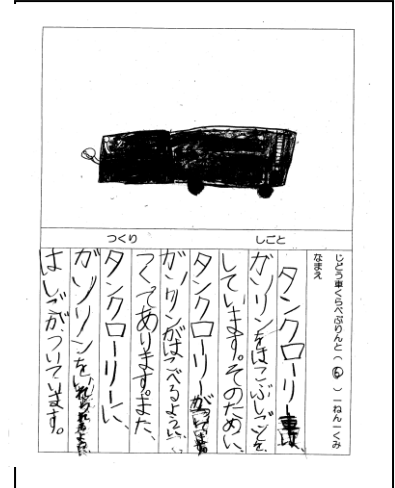
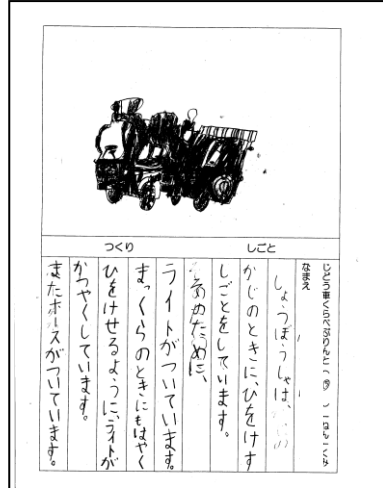
児童は、バス、乗用車、トラック、クレーン車についての説明文を読みながら、それらの車の働きとつくりを読み取る学習を行ってきた。その中で、「しごと」「そのために」「つくり」という文章構成をつかみ、最終作品となる「自動車図鑑」の書き方も学んできた。本実践では、読解の時間に、さらに挿絵から見つけた「つくり」についても文章で表現する活動を取り入れた。このことで、見つけた「つくり」が本当に仕事に関係しているのかを思考判断した上で説明する力を育てることができた。そのため、最後の図鑑作りにおいても、ミニカーを観察しながらその車の仕事を思考し、ほかの自動車の作りと比較しながら特別な作りを見つけ、仕事と関連付けながら自分の言葉でそれらを表現するという活動を行うことができた。子どもの実態に合わせたワークシートを作成したり、話型の掲示や評価規準を明確にしたりしたことで、児童は課題に生き生きと取り組むことができた。ふだんは文を書くことを苦手とする子も、安心して文章を書く姿が見られた。

ループリックを作成すると、指導過程において子どもの作品を評価できるため、子どもの作品をよりよいものに高められる利点がある。ただ、低い評価になってしまう子に対しては、支援する中で予定していた時数を越えてしまうなど難しい面もあった。

また、今回ループリックを作成したことにより、他の単元や他教科でも同様に評価基準を明確にしやすくなった。他の単元においても、児童に評価基準を伝えてから課題に取り組ませたため、子どもたち自身も自分がどう取り組めばよいか具体的に分かるようになった。

自分の思いや考えをすすんで表現する楽しさを知った子ども達は、その後の国語科の「しらせたいな見せたいな」という単元でのウサギの観察や生活科のチューリップの球根の観察などにおいても、色、形、大きさ以外にも多面的に事象をとらえ、視覚、聴覚、触覚など様々な感覚で情報を取り出し、それらを関連付けたり吟味したりしながら文章で説明することができるようになってきた。

これからも引き続き、子どもたちの発達段階を考慮しながら、自分の思いや考えをすすんで表現する児童の育成に努めていきたいと考える。



実践例 2 【指導案】

第 6 学年 1 組 国語科学習指導案

平成 22 年 11 月 30 日 (火) 第 6 校時

在籍児童数 男子 15 名 女子 18 名 計 33 名

指導者 新藤佳世子 (西富小学校)

- 1 単元名、教材名 共に考えるために伝えよう ～みんなで生きる町～
- 2 児童の実態と本単元の意図 (略)
- 3 単元の目標
 - (1) 「多くの人が使えるように」なることを考えて、身近な施設や物に関心を持ち、進んで調べたり発表したりしようとしている。(関心・意欲・態度)
 - (2) 調べたことが、聞き手にわかりやすく伝わるように工夫して発表することができる。(話す・聞くこと)
 - (3) 多くの読み手に提案内容が分かりやすく伝わるように組み立てを工夫して書くことができる。(書くこと)
 - (4) 資料「多くの人が使えるように」を読みユニバーサルデザインについて読み取ることができる。(読むこと)
 - (5) 自分の考えを明確にするため、文章全体の構成の効果を考えることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- 4 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準 (略)
- 5 指導と評価の計画 (13 時間扱い 本時 11 / 13 時)

時	主な学習活動	学習内容	○評価規準・評価方法
1～6	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読み、話し合う。 身近な施設やものについて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い方 調べ方 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの様子 ワークシート
7～9	<ul style="list-style-type: none"> 発表準備。 発表を聞きあいながら、疑問点や共感点について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表資料の作り方 話の組み立て方・話し方・話し合いの視点 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の内容態度 ワークシートの考察
10 11 本時 12 13	<ul style="list-style-type: none"> 自分の提案内容を考える。 案文章の 2 つの書き方の違いや良い点について話し合う。 自分の提案文章を書き、友達どうしで推敲して仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容の立て方 二つの文章の違い わかりやすい提案文章の組み立て 交流・推敲の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の内容、態度 提案文章の内容

6 本時の学習指導 (本時 11 / 13時)

(1) 目標 提案内容を明確にし、わかりやすい文章の書き方がわかる。

(2) 展開

学習活動	学習内容	○指導と評価の創意工夫	時間
1 本時の学習課題をつかむ。	説得力のある提案文章を書くコツを見つけよう。		5分
2 2つの提案文章の違いをグループで話し合う。	○同じ提案内容の2つの文章の違い ・話し合いの視点 ・考えの発表の仕方 ・意見のまとめ方	・各々が付箋紙を使ってグループで積極的に話し合えるよう支援する。 ・理由を説明したり、観点ごとにまとめたりさせ、思考力・判断力の育成を図る。 ・2つの文章の違いやわかりやすい表現などを発表しながら、提案文章の書き方に気づかせまとめさせる。 ・2つの文章の違いを言葉で表現することは難しいので教師も言葉を補いながら話し合いを進める。	14分
3 グループで話し合ったことを発表し合い全体でまとめる。	○グループでの話し合いをもとにした2つの文章の違い ・相手を意識した組み立て ・段落構成 ・段落のつなぎ方 ・一文の長さ ・より良い表現の仕方 ・接続詞の効果 ・文末表現	評価場面 1 【具体の評価規準】 アの③ ウの② 【評価方法】 発表の内容や態度による考察 【手立て】 ・ワークシートの内容を確認させながら発表できるようにする。 ・言葉で表現することが難しい児童には気づいた箇所だけでも発表してよいことを伝える。	20分
4 提案文章のもとになったメモを提示して、自分の提案文章に取り組む。	○提案文章のもとになったメモの書き方のポイント ・現状のよいところ ・足りないところ ・これから必要だと思うこと ○自分の提案文章の取り組み	・話し合いを生かして、教師が簡単な捕捉をし、書き方のポイントをおさえる。 ・自分の提案文章に取り組む際には、「メモを書いてから提案文章を書く」「すぐに提案文章にとりかかる」の、どちらでも選択できることを伝える。 ・迷っている児童に話し合いを振り返らせながらメモから書くように支援する。 評価場面 2 (略)	10分
5 今後の学習予定を聞く。		○ 次回は提案文章を仕上げることを伝える。	1分

(3) 資料 [比較する例文]

A

みんなに便利「音の案内板」
○○小学校のみなさんへ

わたしたちは、国語の学習でよりよい町づくりや学校づくりについて考えました。その中で、わたしは、県立公園の案内板についての案を考えつきました。ぜひ、いっしょに考えてみてください。

(提案)
県立公園に、音声で案内してくれる案内板を設置してほしい。

(提案理由)
県立公園は、たいへん広い場所で、その中に野球場、アスレチック広場、サイクリング場、いくつもの売店、トイレなどが分散しています。慣れないと目的の場所に行き着くのが難しいと感じる人は多いでしょう。それで、何か所かの入口に、案内板が設置されています。これらは低い位置に、ななめ上を向いて置かれどんな身長の人にも見やすい工夫がしてあります。ただ、地図の見方が分からない幼児や低学年の子は、これを見ても分かりません。かなり細かいので、視力の弱い人は見づらと思います。そこで、わたしは行きたいところのボタンをおすと音声で教えてくれる案内板があるといいのではないかと考えました。目印になるものや、分かれ道の標識も教えてもらえれば、よくわかると思います。

B

みんなに便利「音の案内板」
○○小学校のみなさんへ

わたしたちは、国語の学習でよりよい町づくりや学校づくりについて考えました。その中で、わたしは、県立公園の案内板についての案を考えました。ぜひ、いっしょに考えてみてください。

(提案)
県立公園に、音声で案内してくれる案内板を設置してほしい。

(提案理由)
県立公園には、何か所かの入口に案内板が設置されています。幼児や低学年の子はこれを見てもわかりません。視力の弱い人は見づらと思います。だから、音声で教えてくれる案内板があるとよいと思う。

7 グループの話し合いと提案文章のルーブリック

技法	課題	3	2	1
比較	自分と友だちの気づきの比較をする。	自分の気づきとの共通点や相違点を見つけ説明している。	自分と友だちの気づきに共通点や相違点があることがわかる。	自分と友だちの気づきに共通点や相違点があることがわかっていない。
分類	付箋を、観点を決めて分類する。	分類したまとまりに、小見出しをつけている。	分類している。	分類できない。
構成	・現状のよいところ ・問題点 ・解決策 の3段階構成で、つながりに整合性がある。	3 段落構成でつながりに整合性があり、使い方や仕組みを多面的、具体的な例を示して詳しく述べている。	3 段落構成で、つながりに整合性がある。	・3 段落構成ではない。 ・つながりに整合性がない。
表現技法の意識	・接続詞を適切に使っている。(問題点…ただ、しかし 解決策…そこで) ・文末がそろっている	・接続詞を使い、思考を整理しようとしている。 ・末がそろい、多様な文末を書いている	・接続詞を使っている。 ・文末がそろっている	・接続詞を使っていない。 ・文末がそろっていない

【グループ活動の様子】

K : Aは、～ます。で文末がそろっているんだけど
 T : ぼくも
 K : Bは、最後だけ「思う」で、文末がそろってないからAの方がいい。
 T : 私も文末なんですけど、Aは文末がそろっていてBはそろってないから、Aの方がよいと思います。
 S : じゃあ、これ。「目印になるものや～よくわかると思います。」看板がなければ、まわりにある目印って、よく考えているなって思う。
 T : ちょっと違うんだけど、「行きたいところ～いいのではないかと考えました。」だなんだけど、Bには音声で教えてくれるとしか書いてないけどAは「行きたいところのボタンをおすと」と書いてあってBよりくわしく現実にあるって考えているような感じがかいてあるからいい。音声流れっぱなしじゃ困るし。
 (中略)
 N : じゃあ、あの違うところ。(県立公園は～分散しています。)のところで県立公園はこんなに広いんだっていうのを強調しているみたい。
 K : S : T おー。あーあ。
 S : 同じです。同じ。で、いいですか。
 Aは県立公園は大変広い場所で、案内板がないといけないんだなとわ
 T : (大変広い場所で～多いでしょう。)のところでBは何か所かの入口に案内板が設置されています。としか書かれていないけど、Aはそのところをくわしくかいてあるからいいと思いました。
 S : 一回分類しよう。1つ目は書き方？
分類しながら
 N : これはよくしてほしいことを細かくしているから何っていうんだ
 T : これも一緒？
 N : 具体的に？
 K : うん。具体的。おー。
 N : 納得しやすい？
 K : S : おー。あー。じゃあ、次。
 K : Aは思っていることをそのまま書いていいと思ったんだけどBは短くまとめようとしすぎて、うまく伝わっていないから、Bの方がいいな。
 S : あー。なるほど。
 T : 「何か所から入口から～点字もついています。」なんだけど、Aは今の案内板についてのいい所や分かりやすい所も詳しく書いてあるけれど、Bには、今のこと？何も？う～ん。現状を何も書いていなくて悪い所しか書かれていなくて、せつかくやろうかなと思って読んで読んだらいやな気分になる。

比較する

友達の気づきの発表を聞きながら自分の気づきとの共通点を見つけ出している。

2つの例文を比較して説明

例文A・Bを比較し、Aにはこう書いてあるけど、Bにはこう書いていると、比較して説明している。

分類する

付箋紙に書いた気づきの共通点を見出し、分類している。

整理する

付箋紙を利用することにより、共通点を見出し、関連付けしてグループ分けし、整理している。

批判・評価する

付箋紙に書いて意見交換することにより、互いの意見が目に見えるため、評価したり批判したりすることができる。

S：あー。
 N：あー。じゃあ、ここだよ。ここだね。伝わってこない。
 S：伝わり方？
 N：じゃ、これ。「慣れないと～多いでしょう。」なんだけど、案内板を作って人たちに振り返らせたいっていうか、もっとよくしてほしい。改良してほしい。とかこうなんですよ。みたいな感じで言っている。
 S：あー。
 K：わたしはAは「大変広い場所で～分散しています。」でBは書かれていないけど、Aはお店まで知っているから、ちゃんと知っている人なんだなってわかってもらえるからいい。
 S：あー。「慣れないと～でしょう。」で初めての人ほどどれだけ大変かがわかる。

説明する

付箋紙に書いてあることだけでなく聞き手にわかりやすく伝えるために具体的な例を加え説明している。

【アンカー作品例】(本単元12/13の作品より)

以下は、ルーブリックを基にして評価をつけたアンカー作品例である。

(1) 評点3のアンカー作品

よくステージや図書館、体育館等のとびらに厚くて重い大きなとびらがあります。このとびらは、外の音が中に聞こえないようになっていて、中にいる人が集中できるようになっています。また、逆に中の音が外にもれないようになっていて、外にいる人は静かに他のことができます。

しかし、このとびらは、小さい子や力の弱い方には出入りする時に重いため、他の人に手伝ってもらわなければ開けられない時があります。他にも、次の人が出入り口を通る時に先に通って人が次の人が通れるように重いとびらをずっとおさえてないといけません。また、車いすの方にはそのとびらを開けながら進むのは大変なのではないかと思います。

そこで、私はその重いとびらの下に小さなタイヤがついているといいのではないかと考えました。そうすると、重いとびらもタイヤのおかげで軽い力で動きますし、とびらの厚さ自体を変えないので、中で何かを行う時はタイヤを内側にしまいこめるようにすればきっちりすきまなくとじることができ音がもれません。また、次の人が通れるようにドアにフックをつけておき、他の所にひっかけておけば、重いとびらをずっとおさえてなくていいので、よりスムーズに通れると思います。

- ・三段落構成で、つながりに整合性があり、文末がそろっている
- ・問題点を三つ書き、解決策も実際に起こりそうなことを想定して、詳しく述べている。

(2) 評点2のアンカー作品

パルコは、とても広くて、いろいろな品物がそろっています。それにトイレは全ての階のいろいろな所にあり、数も多数あってよいと思います。

しかし、地下のトイレは、段差になっていて車いすの人や足の不自由な人などは、上りにくいと思います。それに、手洗い場は全て同じ高さで背の低い子どもや車いすの人などは届きにくいと思います。

そこで、段差をスロープにしたり、手洗い場の位置を2つ位でいいので、少し低くしたりしたらどうかと考えました。さらに取っ手の部分を長くするとどんな人でも届くようになると思います。

- ・三段落構成で、つながりに整合性があり、文末がそろっている。

(3) 評点1のアンカー作品

北中公園にはベンチがたくさんあります。水道には背の低い人でも台に乗れば飲めます。ベンチには座るところがまるくなっていて上に屋根がついているのが一つあります。たとえば雨が降ってきたら座るところがまるくて屋根がついているところにいけばぬれないしあまやどりもできます。

しかし、もっとたくさんベンチがあると犬のさんぽのとちゅう、きゅうけいする時にベンチに座ることができます。

そこで、北中公園にベンチをふやしてほしいです。

- ・三段落構成になっていない。
- ・つながりに整合性がない。

【実践の振り返り】

児童は、2つの例文を比較し、相違点や共通点などの気づきをもとに話し合い、「わかりやすい提案文章を書くためには、段落の組み立てや表現技法が大切である」ことを学んだ。比較することにより、「書くための観点」がより明確に理解でき、提案文章を書く意欲も高まった。

また、ルーブリックの作成によって、提案文章を児童同士で読み合う際に見合い高め合う観点をはっきり指導することができた。児童のアンカー作品は、段落構成や文末、接続詞が適切に使われていた。

V 研究のまとめと今後の課題

- 1 教材文で学んだ知識・技能を活用して、説明文・提案文を書くための手順について
 - (1) 教材文や「例文の比較」から見つけた「書くための観点」を、説明や話し合いを通して確認・評価したことから、その必要性を理解するとともに、習得がより確かなものになった。1年生では、話型を示すことにより、「どのようにするとより正確に考えを相手に伝えられるか」を思考・判断しながら話し合いを進めることができた。6年生では、観点を定めて付箋紙を活用し話し合いを進めることにより、話し合いが一方通行ではなく、「似ているのですが」「ちょっと違うのですが」のような表現を自然に使い、共通点・相違点を見出し分類することができた。
 - (2) 「書くための観点」を活用して説明文・提案文を書く活動が、考えを整理することにつながった。また、書くことで思考が深まり、「段落や接続詞がどのような役割を持っているか」「論のつながりの整合性」等を、より深く考えさせることができた。何を活用するかが児童にとって明確であったため、6年生では、推敲もグループでスムーズに行うことができた。
 - (3) しかし、6年生の習得させるための2つの例文作りは、何を指導するかが明確でなければ作成が難しく、教師の文章力も必要であった。観点や話型を示すことが、個性的な文章づくりを妨げてしまう可能性もある、という意見もあった。
- 2 学習活動を、思考・説明という観点で分類することについて
思考・説明という観点で分類することにより、思考を意識して指導でき、意図的・意識的に児童の思考を支援することができた。しかし、思考と説明を明確に分けることは難しく、思考と説明を相互に視野に入れながら考えることが重要であると考えた。
- 3 ルーブリックを指導・評価に生かすことについて
教師はルーブリックを設定する過程で指導するための視点をより明確にすることができ、何をどこまで達成させるかを考え指導に当たることができた。ルーブリックを元に指導することにより、児童の個性を失わせてしまうのではないかという心配もあったが、型を明確にすることにより、かえって児童は型を拠り所に自信をもって取り組んだ。自由に書かせる以上に個性的な文章も数多く見られた。
また、指導すべきことが明確になることにより、指導法の改善につながった。さらに、子どもに身につけさせるべき力を他の教材にも置き換えてみるようになったり、他教材にも拡充していくようになったりと、教師自身の視野が広がると同時に、子どもの学習意欲も喚起できることもわかった。
しかし、①全員に基準をクリアさせたいが、細かい手だてを示し過ぎることにより、教師中心の教え込みの授業になるのではないかと②基準に達することができない児童へ対応をどのようにするか（方法、時間）といった課題も見えてきた。